

「認知症の人の世界観を理解する」

11月の公開研修会は、『認知症の人の世界観を理解する』をテーマに、秋津鴻池病院 西 千亜紀 認知症認定看護師よりお話をさせていただき、介護や医療の専門職、地域の自治会、民生委員の方にお越し頂きました。

はじめに、『最近ではテレビやインターネットにより、認知症の種類や基本的知識は広く知られてきていますが、認知症の人と関わる時、認知症という「病態」を見るのではなく、その「人」を観ることが大切です。そして、その人の「心の在り処」を知ることが大切です。これは、知識だけでは知ることが出来ません。』と伝えさせていただきました。

そして、この「心の在り処」という認知症の方の世界観について説明をさせていただきました。

例えば、風邪などの場合は自分自身も経験があるので、ある程度ご本人の気持ちを理解することが出来ます。しかし、認知症の場合は経験をしていないわけではないので、殆どが、関わる側の価値観や想像になってしまいます。その時、ご本人がこれまでどのような人生を生きて来られたかを知ること、ある程度ご本人の「心の在り処」の考察は可能であることを伝え、後半は、前半の講義を踏まえ、事例を通してグループワークを行いました。

「Aさんは、不眠で転倒を繰り返し、それでも歩行器は拒否し、怒りっぽい方です。」という簡単な情報だけで、まずAさんにどのような対応をするかを皆さんと意見交換を行いました。そこでは、簡単な経過しか知らなければ、「睡眠薬を減らしてはどうか、歩行器以外のものを検討してはどうか」などの意見が中心でしたが、その後、その人がどういう人生を送ってきたのかという詳しい説明がありました。すると、「自分がなぜここにいるのか・ここは何処なのか?何をしたらいいのか分からない、知らない人から歩行器を押しつけられる」など認知症の方が体験している世界を想像し、「一から初めて会ったように優しく挨拶する・気持ちを理解できるように行動する、納得してもらえるにはどうするか考える。私がAさんならこうしてほしい」など気持ちを理解しようとする意見に変化しました。

最後に西看護師から、認知症になると失われていく記憶のなかでも、その方の人生の核心にふれることで、その人がより豊かに生きる支援ができ、「こうありがたい」というその人らしさを持って生きていくことができると伝えさせていただきました。

私たちは普段から、認知症のご利用者やご家族と接する立場にあります。その中で、先ずはご利用者の人生において何を大切にしてこられたかを理解して支援していかなければならないという事を、改めて考える機会になった研修会でした。

